

漢和

古今泉貨鑑

說論

十九二十

ネ 4

1119

12止

9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4

門 示 4
號 1119
卷 12 止

泉貨鑑卷之十九



元和寛永ノ頃ニ

御所ニ於テ花蝶定メト

イヘルコトアリシト云傳フ又越中富山ノ前田

家ニ於テ古錢ノ位階定メト云事アリ是ハ古錢

ノ多少ヲ以テ位ヲ定メ上中下ノ次第ヲワカツ

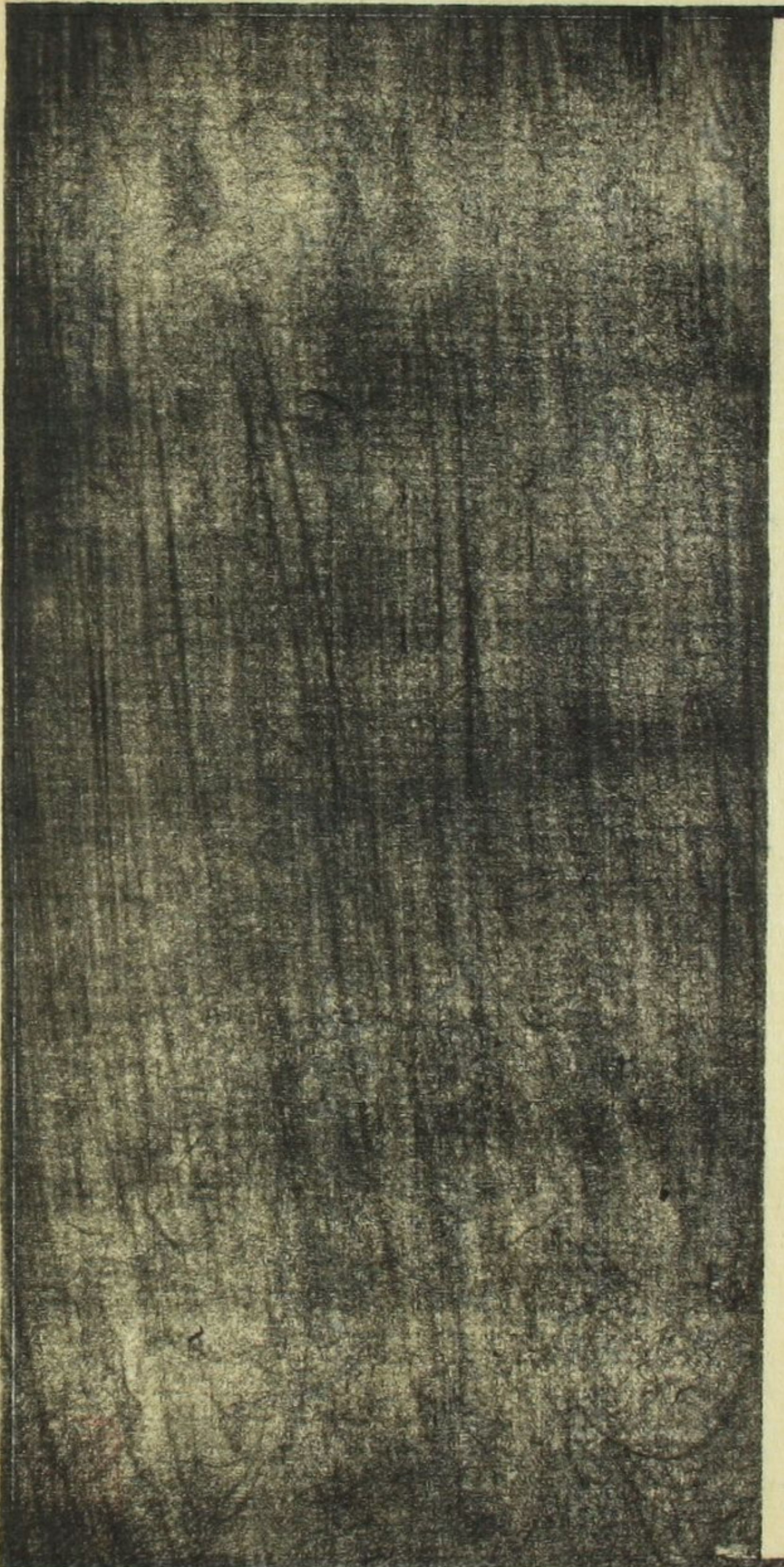
コトナリ其後又中谷顧山宇野宗明等カ弄泉品

定メト云モノアリ是ハ古文錢ヲ初メニ置テ次

ニ平泉百品ヲ集メテ次第ヲナセリ是ハ年代ノ

泉貨鑑卷之十九

次第ヲ論ズルニハアラス古錢ノ多少ヲ以テ位階ヲ定ムルコトナリ



古文錢位階

第一

布泉

第二

五行大布

第三

大貨六銖

第四

半兩

常平五銖

大泉五十

泉貨記論

卷中

第五

五銖

貨泉

大貨六銖

次定五銖

平泉多少分位三段

公之座

異說

宗明私考

廣政 一番

乾封 一番

廣政

乾祐

廣政

靖康

光紹

靖康

乾祐

靖康

光紹

光紹

乾封

明德

大德

淳祐通

乾祐

淳祐通

紹豐元

至元

至元

皇恩

皇建

乾封

皇建

皇恩

大治元

大德 十番

大明 十番

永昌

大治元

龍鳳

重和

至元

大德

明德

明德

大治元

大明

重和

重和

皇恩

永昌

永昌

龍鳳

大明

紹豐元

紹豐元

龍鳳

淳祐通

皇建

乾亨重

壽昌

隆武

壽昌

乾亨重

隆慶

光定

光定

大康元

卿之座

乾道

皇元

天慶元

二十番

二十番

皇元

景元

大寶

景元

乾道

光定

大寶

廣和

乾道

隆武

端慶

皇元

咸雍

大寶

大康通

廣和

隆慶

三韓通

端慶

隆武

景元

隆慶

清寧

壽昌

太興平

咸雍

大治通

三十番

三十番

天慶元

天慶通

乾亨重

天慶通

天慶元

大唐

清寧

天興

廣和

天興

大唐

清寧

乾統

大康元

天慶通

大康元

大康通

咸雍

大唐

乾統

端慶

大康通

大治通

宣和元

大治通

大正

太興平

大正 四十番

大興平 四十番

三韓重

大夫之座

永壽

元和 篆

慶曆

三韓通 篆

順天

天興

海東重

通正

大安

慶曆

宣和元

大正

玄聰

慶曆

乾統

宣和元 真

天佑

通正

三韓重

大義

泰昌

大安

通正

海東 五十番

元和 篆

東國重

紹聖通

天佑

泰昌

大義

大安

泰昌

三韓通 五十番

三韓重

海東通

海東重

東國通

東國重

玄聰

永壽

元和 篆

大義

海東重

東國重

海東通

天佑

順天

玄聰

東國通

順天

明宋

崇寧通 六番

士之座

天定

弘光

裕民

天福鎮

永壽

崇寧通

明宋

紹聖通

漢通

天盛

天福鎮

天定

東國通

紹聖通

明宋

崇寧通

天定

弘光

裕民

天福鎮

泉貨言論

卷中

五

咸康

天盛

天漢

光天

漢通

至正

七十番

常平

永曆

景統

天漢

咸康

光天

弘光

裕民

至正

七十番

唐國

景統

永曆

咸康

天盛

天漢

光天

漢通

至正

常平

永曆

景統

紹興通

開慶

紹興元

唐國

建炎通

昭武

延寧

八十番

庶人之座

端平元

常平

建炎通

開慶

延寧

紹興元

紹興通

昭武

八十番

周通

紹興通

開慶

紹興元

唐國

建炎通

昭武

延寧

端平元

紹平

端平元

紹平

洪順

洪順

洪順

熙寧重

金世

熙寧重

洪化

光順

洪化

金世

洪德

金世

嘉靖

乾德

嘉靖

利用

熙寧重

利用

弘治

紹平

弘治

周通 九十番

嘉靖 九十番

周通

光順

利用

光順

嘉熙

洪化

嘉熙

乾德

弘治

乾德

大世

大和

大世

大宋

嘉熙

大宋

世高

大宋

世高

大和

天啓

大和

洪德

萬曆

洪德

天啓

大世

天啓

萬曆 百番

世高 百番

萬曆

元祿寶永ノ頃泉貨ヲ集メテトウクワ鬪化蝶ト名ツケテ
 コレヲタクラベルノ遊アソビアリ其次第ノ如キハ人
 知ル者希ナリ今其式シキノ大躰ヲ記シテ古ヘコノ
 樂アルノコトヲ知ラシムルノミ又化蝶類クワテウライエン苑等
 二泉貨ノ多少ヲ以テ位ヲ定ム曰珍上上曰珍上
 曰上上曰珍曰上曰中曰下右ノ次第ヲ以テ其位

ヲワカツモノナリ

化蝶真之競キン

一五銖類 年代知レクモ知レサルモ 惣シテ五銖類

一年代泉 上上泉 上泉 中泉 下泉 右四品之内一種

一年代不知品 右同斷

一未勘泉

一繪泉

以上五泉也

右真之競泉ノ次第但一通ギリニ振札ニテ古銅

出スベキ事

行之競キョウ

年代知レタルモ知レザルモ五銖類又ハ中下ト
モニ残ラズ振札次第

草之競キョウ

年代知レタルモ知レサルモ五銖類又ハ上上泉
上泉中泉下泉繪泉未勘泉其外何泉ニテモ勝手
次第泉ニ嫌ナク出スベシ

化蝶競臺之極

一 布泉持タルハハ金梨子地ノ臺用ユベシ

一 五行大布持タルハハ唐木ノ臺用ユベシ

一 大貨六銖一永安五銖一乾封泉寶

右三種持タルハ黒塗ノ臺用ユベシ

一 常平五銖一大泉五十

一 半兩一長命富貴

右四種持タルハ栗色塗ノ臺用ユベシ

但シ常平 大泉 半兩此三種揃ヘテ持ザ

ル者ハ白木臺用ユベシ右三種ノ上ニ長命

富貴ヲ持タル者ハ三種持ノ上座タルベキ
事

右ノ外化蝶狭ニテ出ス部ハ白木臺タルベシ
此ノ如ノ銘ノ次第ヲ以テ臺ノ品ヲ極ムトイヘ
凡泉ノテキアシク臺ニ載ベカラザル泉ニテコ
レアルニ於テハ持ザルト同前ノ事也附タリテ
キ宜シキ泉トイヘ凡無名ノ泉ハ右同前タルベ
キ事

古銅包紙之次第

- 一 布泉持タルハ 惣金銀並砂子沼繪色鳥子
- 一 五行大布持タルハ 表泥繪裏砂子並色鳥子
- 一 大貨六銖 一 永安五銖 一 軋封泉寶
- 一 右三種持タルハ 表裏砂子
- 一 常平五銖 一 大泉五十
- 一 半兩 一 長命富貴
- 一 右四種持タルハ 行成紙裏砂子此外ハ 行成紙

化蝶敷之極

一 布泉持タルハ

錦唐織用ユベシ

一 五行大布持タルハ

金繡今織用ユベシ

一 大貨六銖 一 永安五銖 一 軋封泉寶

右三種持タルハ 縐子二種持タルハ 綾一種

持タルハ 純子但シ三種揃タルハ 金入苦シ

カラズ二種持タル者ハ 金入用捨アルベシ

一 常平五銖 一 大泉五十

一 半兩 一 長命富貴

右四種持タルハ 縐珍三種持タルハ 紋綸子

二種持タルハ 縮緬一種持タルハ 紗綾用ユ

一 半ベシ 右ノ外ハ 淺黄羽二重タルベシ

一 常平五銖 袋之極

一 布泉持タルハ 錦唐織

一 五行大布持タルハ 金繡今織

一 大貨六銖 一 永安五銖 一 軋封泉寶

右三種持タルハ 縐子綾但シ 軋封一種持ハ

純子是ヨリ以下ハ 袋用ヒス 服紗包タルベ

シ

服紗之極

一布泉持タルハ 合ニキキリ 紫縮緬用ユベシ

一五行大布持タルハ 紫色ヲ除キ其外何色ニテモ用ユ

一大貨六銖一永安五銖一軋封泉寶

一右三種持タルハ サヤ 紗綾紫色ヲ除キ其外何色

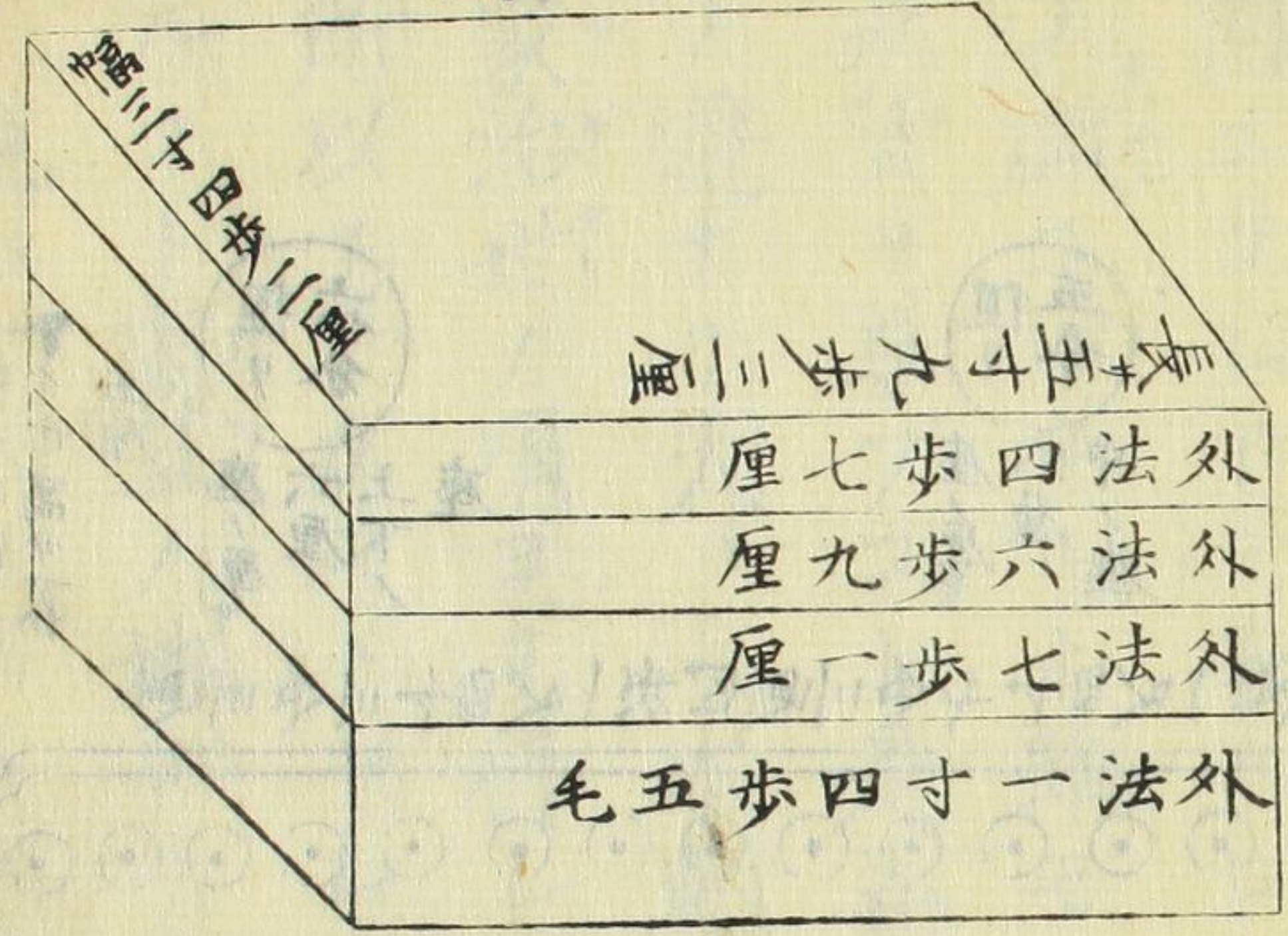
一木ニテモ

一常平五銖一大泉五十

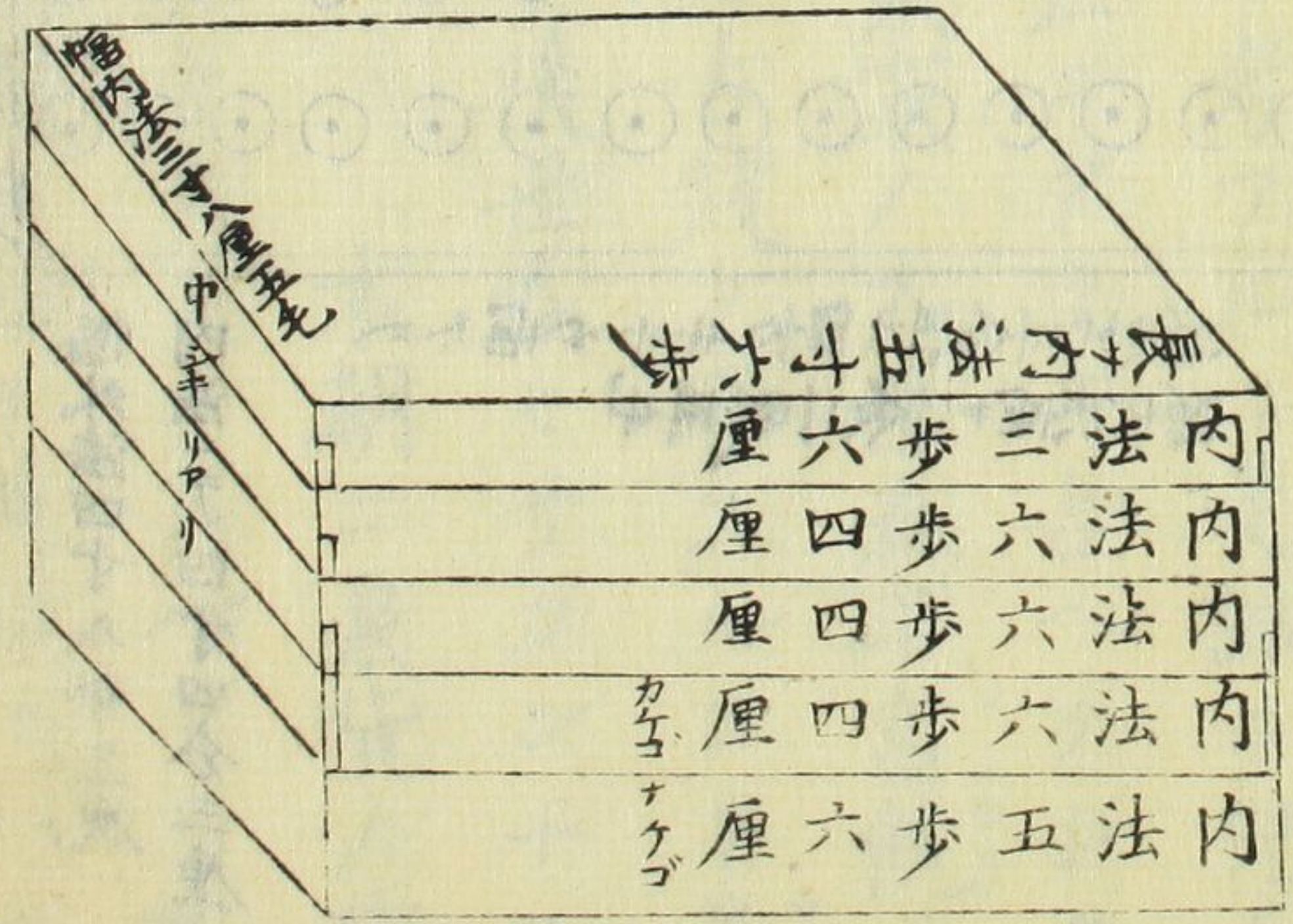
一半兩一長命富貴

右四種持タルハ アサキハブタイ 淺黄羽二重是ヨリ以下ハ

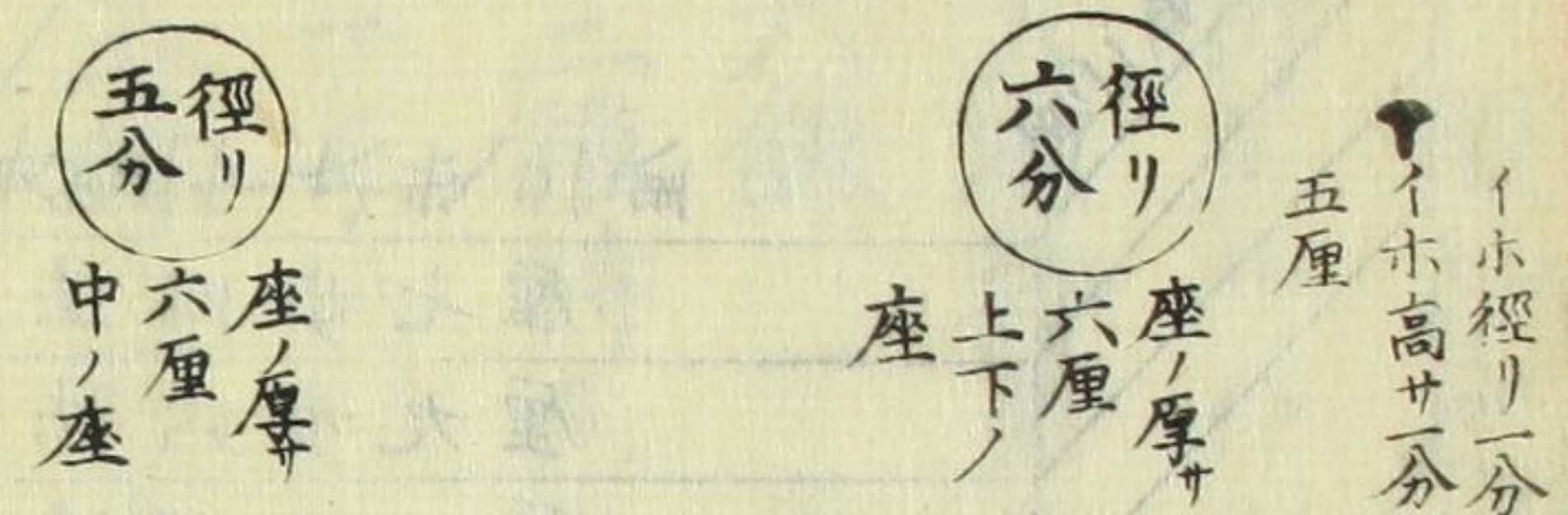
箱之圖



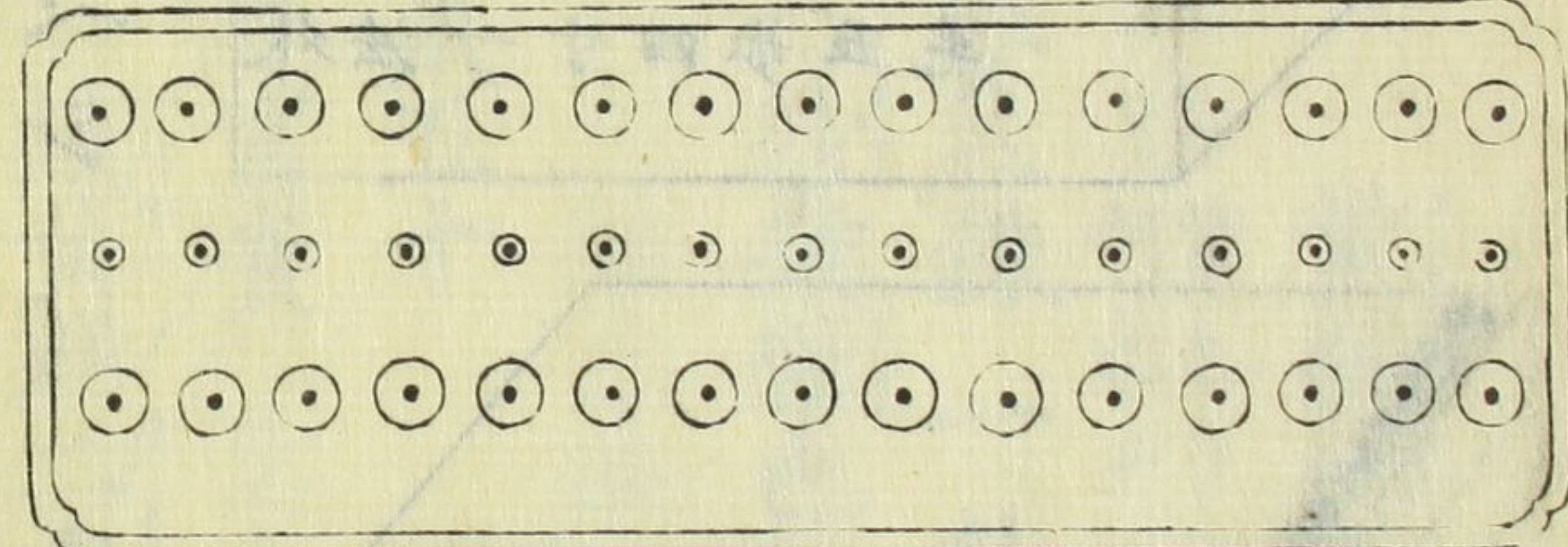
淺黄木綿タルベシ



化蝶敷之圖



外法一尺四寸七分三厘内法一尺四寸三分三厘



幅外法四寸八分三厘
内法三寸四分三厘

縁厚二分四厘四方計一白一
縁内法一尺二分五厘

惣縁外ノ高サ三分四厘
五毛

右花蝶ヲ闘ハシムルノ説ハ宇野宗明ガ弄泉記

ノ内ニコレアリ予コレヲ考フルニ是誠ニ兒女

子ノ戯ニ似タルト雖モ左ニアラズ古ヘヲシタ

イ泉貨ヲ尊ブコト是弄泉家ノ大意泰平富饒ノ

世ノ遊ナリ夫本朝ニ古銭ヲ弄スルコト足

利家治世ノ頃ヨリ行レテ後世益々サカンナリ

其所以ヲイカントナレバ本朝ニ泉貨ノ殘

レルコト震且ノ地ヨリ多キコトアレバナリ震

且ノ地ハ古ヘヨリ多ク新銭ヲ鑄テ舊銭ヲハイ

ス新舊共ニ用ユルノ世アリトイヘトモ少シ又
 震且ノ地ハ四方地續ニシテ隣國ヘ散ヤスシ
 本朝ハ古ヘヨリ新舊共ニ通シ用ヒテ足利家治
 世ノ頃ハ專ラ宋遼金元明ノ錢貨ヲ渡來シテコ
 レヲ天下ニ敷キ用ヒ古今ツイニ舊錢ヲハイス
 ルノコトナシ又日本ノ國形ハ四方海岸ニシテ
 東隅ニヨリ泉貨ノチルベキ隣國ナケレバナリ
 此故ニ古錢ニ限ラズスベテ古物ヲ集ムルニ甚
 便ナリ又古錢ヲ翫弄スル者ニ様アリ或ハ古代

ノ泉貨世ニ希ナル者ヲ多ク得テコレヲ珍トシ
 私ニコレヲ樂ムモノアリ或ハ泉貨ヲ以テ國ノ
 存亡土地ノ貧富ヲ考ヘ政事ノ強弱世ノ盛衰等
 ヲサツシテコレヲ樂トナスモノアリ事ハ二ツ
 ニシテ其樂トナストコロハ一ツナリ共ニ泉貨
 ヲ愛重シ且尊敬スルノ意ニ於テ異ナルコトナ
 シ只泉貨ハ尊敬スベシミタリニスベカラス古
 今帝王ノ國ヲ治ムルニ食貨ノ二ツヲ以テス二
 ツノモノナクンバ何ヲ以テカ國ヲ治メン是泉

泉貨論

卷中

一五

貨ノ足レルヲ以テ王侯貴人トス泉貨ノ乏シキ
 ヲ以テ卑賤ト云泉貨ナクンバ何ヲ以テカ王侯
 モ貴カルベキ泉貨ヲ知ラサル人或ハ鐔トナシ
 或ハ錢面ニキヅヲ附ルノ者アリコレ古ヘノ帝
 王ノ國ヲ富スノ具如何ゾコレヲ破ルベキヤ此
 ノ如キノ人ハ誠ニコレ心ナキカ是易牙ガ輩ナ
 ルベシ夫泉貨ヲ尊敬セバヲノヅカラ神アリ古
 今其シルシ少カラズ
 泉貨鑑卷之十九終

泉貨鑑卷之二十

錢神論

沈括力筆談ニ曰廬山ノ太平觀ハ乃九天採訪使
 者ノ祠唐ノ開元中創建元豐二年道士地ヲ發テ
 一ノ銚ヲ得タリ封鑄甚固シ之ヲ破レハ一銅錢
 アリ文ハ應元保運ノ四字アリ以テ異トセス元
 豐四年忽チ詔アリ號ヲ九天採訪使者ト進メ應
 元保運眞君ト爲ス錢文ト符同ス本觀乃其錢ヲ

以テ表シテコレヲ獻ス

趙抃チコウヘンカ成都セイトキ記ニ曰嚴真觀ケンシンハ漢ノ嚴君平ケンヘイカ宅タクナ
 リ内ウチニ井イドアリ名ナソケテ通仙ツウセント云者キ舊傳キウテンニ云此コノ
 井漢州綿竹縣ノ君平ケンヘイカ宅タク中ノ井ト相通アイツウス近歲チカコロ
 人アリ井ヲ淘アラテ銅錢ドウセン三文ヲ得トクタリ徑ハタリ二寸バ
 カリナリ因ヨツテ恍惚ウツトリトシテ安カラズ錢セニヲ井中イドノニ
 投トウス立トコロニ愈イタリ

博異志ハクイシニ曰岑文本センブント云人夏ナツノヒ日山亭サンテイニ涼スミ居夕
 リ門カドヲ扣タク者アリ名ナノツ衆ムラテ曰上清童子セイコウドウジ元寶參奉ゲンホウサンポン
 スト其姿スカタヲ見ルニ青圓角ノ冠清青衣アヲクマカカクヲ着キタリ
 童ワカノ云吾ハ漢ノ世ヨリ仙人ノ果クワヲ得トクタリトテ
 漢魏ノ盛衰セイスイヲ語ル文本其冠衣ノ更コトヲ問トフフ答コタヘテ
 曰僕ハ外服圓ホカフクマツカニシテ心方正ホウセイナリ是上清五銖ノ
 服ナリトイヘリ歸ル廿二門外垣ノ本モトニテ忽タチマチ

消タリ文本其所ヲ掘リ見ルニ五銖錢アリ文本
考テ白上清童子ハ銅ノ名元寶ハ錢ノ文ナリ外
圓方心ハ錢ノ形ナリ五銖マタ錢ノ名是漢ノ
世ニ鑄ルトコロナリ文本此錢ヲ得テ後次第ニ
富貴ト成リ官中書令ニ至ル

魏郡ノ張奮本富タリ後衰テ家ヲ賣ル阿文是ヲ
買トイヘ氏家ニ崇アル故ニ移ラズ或時太刀ヲ

帶彼ノ家ニ行テ梁ニ上リ潛居タリ夜半ハカリ
二長一丈餘ノ夫出ル高冠黄衣ナリ聲ヲ上テ細
腰細腰ト呼ベハ何者力出テ應諾ス夫ノ曰舎中
何トシテカ生人ノ氣アルヤト問ヘバ何モナシ
ト答フ彼夫去ル又高冠青衣ノ者來テ右ノ如ク
二問答ス又高冠白衣ノ者來テ右ノ如ク二問答
ス阿文夜明テ右ノ如ク問バ又答フ又問フ先ノ
人ハ何者ゾ對テ曰黄衣ノ者ハ金ナリ西壁ノ中
ニアリ青衣ノ者ハ錢ナリ堂前ノ井ノ邊リニア

リ白衣ノ者ハ銀ナリ牆東ノ北角ニアリ吾ハ杵キ子
 ナリ竈ノ下ニ居ル阿文人ヲ集メテ掘セテ見レ
 バ金銀五百斤錢千萬貫ヲ得タリ又竈ノ下ニ杵キ子
 ヲ探シ出シテ焚失ヒケレバ此ヨリ阿文大二家
 富家内モマスシトナリ

唐ノ穆宗ノ時禁中ニ花開ク夜蛺蝶數萬アリ飛
 テ花間ニ集ル宮人羅中ヲ以テコレヲ撲ニ獲者トラユル

ナシ上網ヲ空中ニ張シメテ數萬ヲ得タリ遲時アネコロシ
 ニコレヲ視レバ皆庫中ノ金玉錢ナリト後ノ世
 錢ヲ化蝶トイヘルハ此故事ナリ

故事因縁集ニ曰日本天正ノ末石州市木ニ住ス
 ル貧人夢ニ此山ノ峯ニ柏樹アリ其根ニ金錢ニ
 貫壺ニ埋テアルトミタルコト三夜女房亦夢ミ
 タリ然ルヲ疑ナカラ行テ見レバ壺ニ鐵錢アリ

夫大ニ腹立シテ歸ル隣人不思議ニ思ヒ行テ見
レバ皆金錢ナリ拾ヒ取テ富貴トナル

故事因縁集ニ曰日本元和年中紀州水野氏ノ與
力平岩何某或時遠矢ヲ放ツ俄ニ大風吹テ火ナ
キニ煙起ル平岩アヤシク思ヒ烟中ニ矢ヲ放テ
バ煙忽ニ止又其所ヲ見ルニ錢數多アリ動キ踊
ルコト生ルガ如シ其錢八文ヲ取テ歸ルソレヨ

リ富貴トナル其評ニ曰錢ハ王侯大人徳ノ政
ニシテ王名年號ヲ鑄付タル者ナレバモツトモ
奇特アルベシト云ヘリ

周通元寶錢ヲト家擲錢ニ用ユルコト諸書ニ見
エタリ又狐狸ノツキタルヲ拂フ術アリ俗ニ通
天錢ト云此錢ハ五代後周ノ世宗天下ノ銅佛ヲ
毀テ鑄ル所ナレハ其奇瑞アルベシ凡テ古錢ヲ

携ル人二ハ狐狸ノ類近付コト能ハスト云ヘリ

唐國通寶ノ篆書錢ヲサスガミト云七錢ヲ以テ

邪魅妖氣ヲ拂ヒ退ク又常ニ携テ運強シ或ハ云

陰指神

富壽神寶ヲ日本サスガミト云モツトモ妙多シ

守鏡ノ下ニ納テ不祥ヲ去ル或ハ云陽指神

長年大寶 萬年通寶 長命富貴 百千長壽

萬曆通寶 福壽双泉 永壽通寶 壽昌元寶

此外長壽ノ稱アル錢ヲ産湯ニ入レハ其子長命
ナリ錢神論ニ曰朽セザルヲ壽ニカタドルトア
リ又或説二錢ハ仙ナリト注ス延齡無窮ノ徳ア
リトイヘリ

布泉ノ男錢ヲ佩ルトキハ男子ヲ生ト云傳フ是
 ハマ々其奇瑞ヲ見タリ然レ氏布泉世ニ希ニシ
 テ得ガタシ若コレヲ得ザル時ハ搨形ヲ以テ婦
 人ニ守リトナサシメテ可ナリ又豊貨錢ヲ收ム
 レバ其人ヲシテ豊富ナラシムト云右泉志ニ見
 エタリ

古錢七十二文ヲ檀上ニ置北辰靈符神ヲ祭ルコ
 ト鎮宅靈符ノ縁起ニ載ス壽命ヲ祈リ富貴ヲ需
 ルコト古今コレアリ

加官進祿 且爾子孫 長命富貴

百千長壽 長生保命 福壽延長

壽福山海 金玉滿堂 福祿齊壽

此外厭勝品ト云ノ類凡テ祥瑞多シアケテ計ヘ
 カタシ錢ハ古今人心ノ倚ル處自然ニ神アリ信
 敬スベシ

右數个條ノ説ハ誠ニ空言ニ似タルトイヘ氏左
 ニアラズ古ヨリ泉貨ヲ尊敬スルコトヲ知ラシ
 メ世俗ヲシテ古今ノ珍寶ヲ破ラシメサル爲ナ
 リ夫錢ハ燧人氏輕重ヲ以テ天下ヲナセシヨリ
 始リ黃帝成周二至テ其法寢具リ秦漢ヨリシテ
 コノカタ錢文明ヲカニ後世ニ傳フ六朝ノ頃ニ
 至テハ錢面二年號ヲ鑄ルモノ多シ年號ハスナ
 ハ千世々ノ帝王ノ號ナレバモツトモコレヲ尊

敬スベキナリ如何ゾ是ヲ賤シムベキヤ然レ氏
 錢ハ上下通行シテ甚便用ナルヲ以テ世ノ人コ
 レヲ嫉ミ賤シム兒女民俗ノ如キハ言ニタラス
 大儒學者トイヘ氏是ヲワキマヘザル者多シコ
 レ其末ヲ知テ其本ヲ知ザレバナリ錢ハ日月ノ
 草木國土ヲ照シタモフガ如ク上下通和シテ貴
 キトイヘ氏恐ズ賤キトイヘ氏イトハズ世ニ行
 レテ人用ヲ便スルモノナレバ民間ニ通行シ卑
 賤ノ手ニアル時ハ貴人ノ手ニ觸ルモノニアラ

ズ是錢貨ヲイヤシムニハアラス貴賤ノ差別アルユエンナリ又錢貨ヲ賤シムユエンハ民俗ヲシテ寶ヲムサボラシメサル爲ナリタダヲシナベテ賤シキ者ノ様ニヲモヘルハ寶ヲ嫉ムニシテ已ガ心ノ賤シキヨリ起レルモノナリ古錢トナツテ世ニ愛重ゼラル々ニ及テハ淳化大觀等ノ御書錢ハ震筆ヲ尊敬スルト異ナルコトナシ錢文二年號ヲ鑄ル所以ハ一ハ其時代ヲ記シ一ハ是ヲ尊敬サセンガ爲ナリ尊敬セザレバ貨輕シ

貨輕ケレバ物貴シ物貴ケレバ上下便ナラス此ノ如キコトハ古ヨリ諸書ニ記シテ大儒學者ノ知ラザルベキニハ非サレトモ實ヲツクスコト薄ク麤ヨリヲコレルナリ或人予ニ大儒ノ撰タル書ヲ見セシムルニ曰唐ノ開通元寶錢ヲ世俗開元通寶ト對シテ讀ハ非ナリ廻環シテ開通元寶ト讀ベシトアリ是笑ベキノ一ナリ既ニ唐書ノ食貨ニ云開元錢ヲ俗ニ開通元寶ト謂ヲ以テ軋封ノ新錢ヲ鑄ルニ及テ流俗ト同ジク軋字ヲ

集貨論

卷一

九

上ニ置キ封字ヲ左ニ置ク尋テ錢文ノ誤ナルコ
 トヲサトツテ却テ舊錢ヲ用ユトアリ此ノ如ク
 開元錢ノ廻環シテ讀ニアラザルコト明ラカナ
 リ然ルヲカク言モノハ學者歷代ノ食貨志ヲ見
 ザルニハアラズ我アツカラザルコトナルガ故
 ニ其見ルコト麤畧ナレバナリ然シナガラ唐ノ
 代ニスラモノヲ官人コレヲ誤テ軋封ノ新錢ヲ
 循讀トスイワンヤ日本ノ儒者ニ於テヲヤ孔子
 曰知ラサルヲ知ラズトスコレ知レルナリト學

者已ガ博學ヲタノンテ錢貨ノコトヲ論シ誤リ
 ヲ記シテカヘツテ文盲ノ弄錢家ノ笑トナル腐
 儒ノ甚シキニアラズヤ已ガアツカラザルコト
 ヲ論スルハ愚ナリ泉志ノ跋ニ博學歐公ノ如キ
 モ八分書ヲ以テ隸書トスイワンヤ其下ナル者
 ヲヤト云ヘリソレ歐氏ノ博學タニモ此ノ如キ
 ノ誤アリ然レバ古錢ノ文古ヘヨリ稱スルトコ
 ロトイヘ凡誤リナキニシモアルベカラズ泉貨
 鑑ニ出ストコロノ篆隸真楷行草八分楷トイ

へ氏皆古へヨリ云傳フルヲ以テ是ヲ名ヅク或
ハ此ノ如キ體ヲ真ト云或ハ此ノ如キ體ヲ楷ト
云ト其弄錢家ニ言傳フルトコロヲ以テコレヲ
極ルモノニシテ文法書家ノ説トハ異ナルベシ
銅器ノ文字ハ弄錢家ニ極ムベクシテ書家ノ知
ルトコロニ非ス紙結ニ書タル文字ハ書家ニ極
ムベクシテ弄錢家ノアヅカル所ニアラズタ、
ワガアヅカルトコロヲ知テ他ヲ言ベカラズ我
アヅカルトコロトイへ氏誤ナラ多カルベシ泉

志ノ序ニ神文作巨ニ應ゼス竹形誤テ安瓜ヲ釋
ストアリ是不知年代品第三ニアル一文錢ト名
ヅクル者穿下ニ一字アリコレ古へノ神ノ字ナ
リ誤テ巨ノ字ニ作ル刀布品ノ異布第十二アル
者金ノ邊ニ瓜ヲ安スト云コレ介ノ字ニシテ瓜
ニアラス昔時ヨリ支那人トイへ氏ナラ誤アル
コト此ノ如シ後世ニ於テハナヲ以テ誤リ多カ
ルベシ只ヒロク學デアツクコ、ロザシ切ニ問
テチカク思ヒ心ニカケテ是ヲ考フルトキハラ

泉貨記卷之四
考下
一

ノツカラ誤リモ少カルベキ乎

泉貨鑑卷之二十終

古今泉貨鑑附記

龍橋公ハ幼キヨリ好ンテ古泉ヲ愛ス其
 壯ナルニ及ンテヤ翫弄益深シ
 公嘗テ宋ノ洪遵カ志ヲ續テ新選錢譜竝
 ニ孔方圖鑑珍貨孔方鑑西洋錢譜等若干
 篇ノ著作アリ僕竊ニ筆シテ以テ梓ニ鏤
 ム今世ニ行ハル所ナリ其後鈴木為棟

ナル者此書ノ草稿ヲ持シ來テ僕ニ示シ
テ曰ク此書ハ頃日ニ公ノ著述スル所ナ
リ古今海内ノ錢貨大槩此書ニ盡セリ其
存シテ傳ル者ハ圖ヲ作シ其銘文ノ三ニ
シテ存セサル者ハ其名ヲ舉テ脱スル
ナシ其鑑定銅色考鑄錢數法等ニ至ルマ
テ其說其論最モ精シ子カ嘗テ梓セシム

ル所ノ新選錢譜ハ漢字ニシテ童蒙ニ便
ナラス此書ハ國字ヲ以テ錄シ其漢字ニ
ハ皆傍訓ヲ施シ童蒙ヲシテ讀ミ易カラ
シム誠ニ弄泉家ノ至寶ナリ然ルヲ公
其謬誤アラント欲シテ予ニ命シテ火
ニ投セシム公ノ意爾リ然レトモ予惟
是ニ忍ズ是ヲ以テ敢テ竊ニ是ヲ子ニ謀

古今身集金 附記 二
ル請フ子予カ為ニ慮レ子若シ筆ヲ勞シ
テ梓人ニ授クルノ意アラハ永ク弄泉家
ノ幸ヒナラム 公若シ是ヲ怒ルヲアラ
ハ吾レ甘ンシテ其罪ヲ受ン子カ意如何
ン僕カ曰ク壯ナル哉言ルヲ夫レ書ハ萬
代不朽ノ貴寶ナリ何レノ書トイヘトモ
必取ル所アリ況ンヤ 公ノ鑿錢ニ於ケ

ルヤ其精研ナルヲ僕能ク是ヲ知レリ仍
テ其草稿ヲ取テ是ヲ涉獵スルニ 公ノ
鑿錢ニ意ヲ用ルヲ甚切緊ナリ 公ハ誠
ニ泉貨ノ神人乎此書永ク存スルトキハ
則チ 公モ亦存スルカ如シ何ツ是ヲ炎
煙ニ任スルニ忍ンヤ即チ為棟カ言ヲ允
トシテ終ニ腐毫ヲ揮ツテ以テ梓人ニ授

今功既ニ成テ而シテ竊ニ公ノ府庫ニ
藏ムト爾云于嘗

寛政十歳次戊午春三月穀且

丹波國福知山藩士小澤東市頼福謹誌

